



又5
4862
1



4862
1

近來正說聞書 前集

本朝諸士百家記

浪華書林 松壽堂藏版

昭和十一年
四月二十八日 購求



本朝諸士百家記序

前集

浪華書林

宇治亞相源隆國の義白肥後公孫
 たり。目者、筆乃ら、海一とことと、敵意に
 りけまこと。宗勳と名あり。自舉月、中
 律比より、秋法の海軍と、はまのく、系
 内と免ふも、領分、宇治乃里に、あも
 里居の、有難君、忠と、誓せん、ぐ、あ、た
 乃、急、ふ、新、殿と、造、陸、来、れ、敵、人、に、奈

三

伊三

を絶し。可れ物候し。替給ひ。自筆と
云く。あましと書記。殿後。備あり。と
あり。名付く。字治拾遺と。匹まれ。あ
侍事と。く。に及侍。あ。日早と。知。ぬ。み
似。し。と。耀冠。小羽。と。体。侍。れ。類。思
下。一。と。せ。病。気。係。書。れ。あ。堀。江。乃。川。屋
小。督。書。居。れ。地。と。志。む。り。り。あ。侍。は。世。を
乃。活。室。あ。そ。人。の。体。小。書。あ。事。一。置

新。終。海。か。し。然。然。れ。物。家。に。様。々
徳。人。れ。喇。と。圖。よ。そ。あ。可。死。の。と。し
日。見。く。お。海。と。校。と。あ。り。り。と。中。に
と。痛。士。れ。ぬ。れ。ゆ。れ。の。づ。り。と。み。れ。た
ふ。り。あ。り。り。其。言。の。ま。ふ。と。拾。集。あ。後
二十。年。と。れ。あ。果。と。あ。ぬ。り。と。り。あ。る。毫
乃。同。と。あ。も。こ。が。父。も。責。ら。ぬ。虚。と。も
更。と。岐。が。中。の。と。と。と。擲。と。敷。に。と。り

一むよのりく題と法士百家記

今時実承才又乃天玉云云申旬

治華津能借僧文流撰之



本朝諸士百家記惣目録 前集

卷之一

越後國小栗小形助忠臣之事

服部平次左衛門助忠臣之事
若湯佐道園松小島助忠臣之事

同千歳山末之忠臣之事

秋笠新左衛門忠臣之事

中國沢村忠臣之事

大坂をなす人少少の事
お入れ下人旅籠振舞の事
同代男武士の雅装ととらふ事

同渡野又なある及後にもころめ事

忠義に逼りおある事

卷之二

石川素次とある女房内と絶は事

小川源又なある事
ある者柱ある事

あしり小敷とれり小毒業の事
川源とある女房は侍勢の事
とある事

川原源次郎遊世修次事

尾川源とある旅宿とある事
多難位とある事
と絶國はある事
強念に大なる事

因列名ある村とある事

源平源とある事

日女房車井の物籠よまふらうしん

と物籠しん

日始十三文めく鐘と合せし

先祖新志

女麻姫美洲の事

先祖新志

巻之三

奥羽三毛塚とてなまの關白の事

但馬國常盤門左衛門

石の社

山城國

日条治

治人醫者

卷之七

播磨赤井治政の事 ばんちゆうけいぢのちよ 子 こ 海 うみ の の 愚 ぐ 智 ち 事 こと

室 むろ 名 な 順 じゆん 心 しん 病 びやう 海 かい の の 事 こと

赤井依田の事 あかいよだのちよ 愚 ぐ 智 ち 事 こと

同和國朝 どうわこくちゆう 石 いし 事 こと 好 こう 人 にん と と 物 もの 事 こと

播磨赤井の事 ばんちゆうけいのちよ 愚 ぐ 智 ち 事 こと

播磨赤井の事 ばんちゆうけいのちよ 愚 ぐ 智 ち 事 こと

赤井依田の事 あかいよだのちよ 愚 ぐ 智 ち 事 こと

現在 いま 新 あらた 羅 ら 生 せい 門 もん の の 事 こと

卷之五

石 いし 別 べつ 博 はく 鬼 き 堂 どう 通 つう 美 み 小 せう 法 ぽう 小 せう 法 ぽう 事 こと

囚 い 人 にん と と 引 ひ の の 後 ご 学 がく と と 残 ざん の の 事 こと

同 どう 間 かん 弘 こう の の 事 こと 弘 こう の の 事 こと

赤井依田の事 あかいよだのちよ 愚 ぐ 智 ち 事 こと

赤井依田の事 あかいよだのちよ 愚 ぐ 智 ち 事 こと

因 いん 播 はく 國 こく 大 だい 屋 おく 傳 でん の の 事 こと

因 いん 播 はく 國 こく 大 だい 屋 おく 傳 でん の の 事 こと

乃者小山田角之丞なり
大守野村先佐の侍なり

卷之六

下野小敷太堂之助男之利造之事

一藝井法よりくさる知よりなり

同村松森之丞奇しく難とのづは事

不忠と恥と忠義とらびひ

越前國南条順左衛門守野原之事

左衛門守野原之事

丹羽孫智山多々良孫八之事

西院窓月に因遍海八十八ヶ寺の事

同左塚を島みしお家にて歌と白紙教の事

卷之七

常陸小幡は素和同左衛門守勇の事

百姓勢と海への事

沼尾の池とくげ場とらびひ

蛇谷地とたきとらびひ

英法四榜原軍八蛇は海に事

外科外痔らんさくのもの
怪れいもの事れり

下総下河名秀太海板ゆりて村換事

大仏大去敷のもの
毒醫の真毒と解と事とわふよ眼毒

その事りしもの

河内忠智字回太海利と責と津本と候事

河内忠玉社大那神神事と事と事のもの

中間孫字重皮末事本間事候もの

石別鈴川松若名忠義よ男と於事

一家中辨信のもの

田子浦内通物市川玄番海事のもの

貞女あまよ海に候もの

卷之八

成茂國花房事と忠經と事

松森奥太事と事のもの

角田川事候のもの

予場其濃き水討よりくらののり

同小孫川為り即其の事

あしりしちらんめいり法と四

一ノ交法被新氣釣のり

橋別月橋熊大橋つ女房其の事

女教訓附勢カ糖のり

比ノ交教平りり

同坪川女熊坂と名よまら女其の事

和光寺略家起のり

写法とつあめ刀のり

肥後國新川沖を流す女房の事

の流る肉子寒る存たのり

水無原乃堅固を金取野たよ志ぬるり

新川船と船徒母とあ流るり

る將の士とるは眼カ格別り

卷之十

美作國武乃つ枕乃事

原九八島新はのり

遊村西の山に清月た露のしほ首と看し
其好の盡どりたし

江州信友尉の妻の親れ村をふじし事

畠清蓮の巫女房不養の事

信友実の妻の虚病と多し隠居の事

佐藤畠山親子塚の事

徳州万歳れいさく千歳の松籠と事

御物好子と千か雲風の事

梅窓庵の金村の事

本朝諸士百家記前集惣目録 畢

本朝諸士百家記目録 前集

卷之一

越後國小栗小形忠長乃事

服部平次左衛門の通達の事

同千歳山末の巫十三女少強歌と付事

衣の三羽七羽の子葉山えたる病の事

中国沢村志の巫骸梅よ男と果の事

大坂花屋の役人引込の事
お入れ下人旅籠振廻の事

同代男武士の難義ととらふ事

同渡野又た忠義の役義ととらふ事

忠義の通事ととらふ事

本朝諸士百家記卷之二

前集

小栗小形の忠義之事

晋農王戎八年小形... 名別成王戎の賢れ... 二寸ありて... 小栗小形... 忠義之事... 晋農王戎八年小形... 名別成王戎の賢れ... 二寸ありて... 小栗小形... 忠義之事... 晋農王戎八年小形... 名別成王戎の賢れ... 二寸ありて... 小栗小形... 忠義之事...





日本書紀卷之...

頁七



小治の御と蔵とをわや一あるは依大君の御名御
 舞つたて藍と松とをくしと若くしとせりといふ飾り
 馬寄るるはたよりとあるとあると金糸勅と飾りぬるも
 一多は中國の御名御名御名御名御名御名御名御名御
 おはぬものよおはぬものよ金と以て大役と作付しと
 の御名御名御名御名御名御名御名御名御名御名御
 付の御名御名御名御名御名御名御名御名御名御
 つひ合しお勅せぬの二字の御名御名御名御名御
 礼とていぬる御名御名御名御名御名御名御名御
 程の御名御名御名御名御名御名御名御名御名御
 と以ていぬる御名御名御名御名御名御名御名御
 御名御名御名御名御名御名御名御名御名御名御
 御名御名御名御名御名御名御名御名御名御名御

訪わくの源出はさへ一葉の春命ありおはす精気のなる
もかりたれは多代に出入の流に頼る身はなほ
愈し往言の指方私宅とて入るも此れは
此類おもむきしや。喜月りの世に酒會の
方あり酒一は芝居の行長先も七軒の
しよせとの見物一日の留置居置酒の
支配方注村を懸て始とて後後今も
次の日大目付酒屋を奉り條原の
うと置置流の流主先も七軒の
中合六十人色と三日の振舞ひ
乞ふ物日の振舞ひ流主居置酒の
相抽志すの年寄役も先達して後
海を以て行るるも先達下村

流の道も所用の事あり別業あり。一カ一急の用わらぬ
上人と乞ふと行先と事主おはせ
九つとと桂山して海を
海の子目守の鉄眼堂とと物し。大
つて流もなるんす。此れとと人の
あふ流もさへんて。あふ流もさへん
中合流の流主。あふ流もさへん
たふのひよもあふ。あふ流もさへん
町とておとそ。あふ流もさへん
中合流の流主。あふ流もさへん
出城町の流主。あふ流もさへん
のち代も人業の流主。あふ流もさへん

日本書紀

卷之三

弘明のゆかりは、彌生時、喜あるおの流に去、彌生はわの祀
 居り入りて、通海も止、海流ともあはよ、あきあきとあはれ
 彌生、のいひ、さうつ、事去、年、九月、の法、を、ん、と、ま、お、れ、
 漸く、九月、修、り、勤、の、由、て、わ、さ、な、あ、る、方、の、病、れ、の、中、あ、る
 た、あ、る、と、わ、ひ、さ、な、と、り、し、ま、る、岩、深、の、あ、と、は、
 一人、と、れ、さ、あ、る、ひ、た、も、五、勤、も、ひ、て、い、ま、を、親、方、と、て、
 立、と、れ、り、増、居、り、あ、る、い、ま、を、な、り、け、り、い、ま、を、世、も、
 子、も、勤、の、あ、る、勤、の、あ、る、た、今、と、増、あ、る、と、中、も、世、も、あ、る、
 能、し、れ、り、事、何、と、も、な、り、い、ま、を、世、も、あ、る、あ、る、と、て、増、勤、
 と、な、れ、り、い、ま、を、い、ま、を、い、ま、を、い、ま、を、い、ま、を、い、ま、を、
 月、は、九月、は、あ、る、と、い、ま、を、あ、る、の、月、は、あ、る、と、い、ま、を、
 い、ま、を、あ、る、と、い、ま、を、あ、る、と、い、ま、を、あ、る、と、い、ま、を、



元二日海に航する朝船より出て海を七令如海と曰く
然る元又在美川に多と猶如也天城よ武士の乃と立て
以て事し以備軍也天祥と名ふたは公よはりて
心腹大守守を名ふて也也是を天城と名ふ下と也不
公よ是を事するの以飛脚又天城の勇気なりては公の
うけ居る日有る也とてしとてなむとては是を天城と
名ふ河津池佛と合掌一とては公のうけ居る日有る
也とてしとては公の

本朝諸士百家記前卷一終

